

マツノマダラカミキリに関する研究 VII

— 餌木を用いての分布と分散の調査 —

林業試験場九州支場 森 本 桂
 倉 永 善 太 郎
 吉 田 成 章
 岩 崎 厚

マツノマダラカミキリの分布については、マツ枯損の激しい林に多く、無被害林に少ないという考えがあった。

著者らは1971年に熊本市の被害林から阿蘇山の無被害林まで餌木を設置して産卵痕数を比較してみたところ、どの場所の餌木にも多くの産卵痕があって、被害とカミキリの分布の間に同じ傾向があるとはいえないことを知った。

このことから、1972年に九州各県林試共同で餌木による分布調査を行なった結果、被害とカミキリの分布の間に関係がなく、カミキリは広範囲にわたって分布していることが明らかになってきた。

マツノマダラカミキリが枯れたマツから羽化するとすれば、被害木の多い林ほど多くのカミキリが羽化するはずであり、無被害林にも多いとすればこれは羽化した林から移動してきたものではなかろうかという考えに立って、6～7月に餌木を定期的に調べる調査を行なったので結果を報告する。

調査方法

1. 国道57号線にそって、熊本市から大分県犬飼町までの直線で約100kmの間に餌木を20か所設置した。阿蘇から竹田市菅生にかけては、マツの被害はほとんどなく、またマツも少なくて不連続に点在しているにすぎない。
2. 餌木は直径6～12cm、長さ50cmで、10本を1組として白寒冷紗の上に井桁積みして十分に枝葉をかぶせた。
3. 第1回の餌木は6月14日に、第2回は7月12日に設置した。6月15日から7月24日までの間に8回調査して餌木からカミキリを採集すると同時に産卵痕数を記録した。

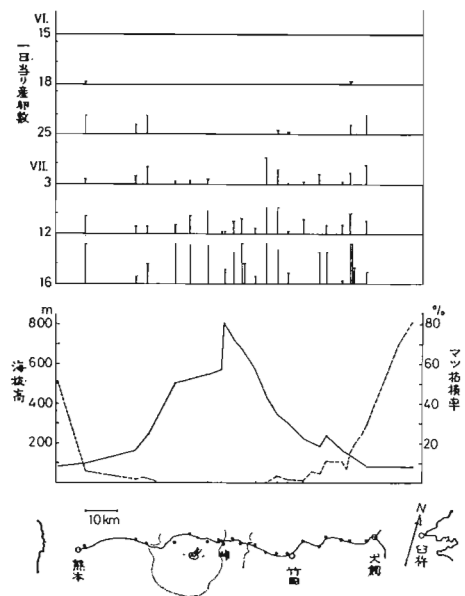
を記録した。

4. 餌木は7月12日と24日に回収し、9月上旬に線虫相の調査を行なった。

結果と考察

結果はまとめて図一に示した。

6月15日には産卵痕が見られなかったが、18日には支場構内と三重町で、25日は熊本～瀬田と犬飼～大野町および竹田市の一部の餌木に産卵痕があった。7月3日には熊本～宮地と犬飼～竹田市戸上まで産卵がみ



図一 餌木設置場所の海拔高(実線), マツ枯損率(点線), および餌木に対する産卵数の関係

られたが、阿蘇外輪山台地の波野村～菅生の間にはなかった。7月12日以降の調査では全地域の餌木に産卵痕がみられ、産卵数も平均化する傾向があった。

この頃からの産卵痕数の分布は、マツ林の枯損程度と関係なく、マツ林に置いた餌木に多く、クヌギ林やスギ林に置いたもので少なかった。

全体の傾向として、産卵痕から推定したカミキリの分布は、被害のある海岸に近い低地から高海拔地へ広がる傾向がみられた。

高海拔地で産卵期が遅れる原因として、その地での発生が気温の関係で遅れると考えるよりは、阿蘇外輪山台地にある波野村のように原野、畑、スギ林内に点在する無被害のマツ林や、水田内に孤立した宮地のマツ林でも激害林の餌木と同様の産卵痕痕数がみられたことから、カミキリが他から移動してきた可能性が大

きいと考えられる。

以上のことから、マツノマダラカミキリは激害林の海岸地方から内陸に向って広範に分散することが推定できる。

参考文献

清原友也他：マツノザイセンチュウの垂直分布——雲仙岳と阿蘇・九重山系での調査・日林九州支部研論26：193～194，1973.

滝沢幸雄・宮崎徹：雲仙におけるマツクイムシの垂直分布，日林九州支部研論 26：223～224，1973.

小河誠司他：マツノザイセンチュウの分布と生態。福岡県林試研究資料 2：3～27，1973.